

使用方法

2. ケトル本体を電源ベースに載せ、電源を入れます

- 上蓋がしっかりと閉まっていることを確認します(①)。
- 水を入れたケトルを、電源ベースの中央に正しく(ケトル底面の凹接続部と電源ベースの凸接続部を合わせて)セットします(②)。

お願い

- 電源ベースは水平な場所に置いてください。
- 本体を電源ベースの中央にセッティングしてください。
- 上蓋がきちんと閉まっていることを確認してください。蓋がきちんと閉まっていると、お湯が沸いても沸騰を感知できず、電源が切れないことがあります。

3. 電源プラグをコンセントに差し込みます

電源プラグをコンセントに差し込みます。
※根元までしっかりと差し込んでください。

⑦

使用方法

3. 電源スイッチを押して電源を入れます

電源ランプが点灯し、湯沸かしを開始します。

△注意

- やけどするおそれがあるので、湯沸かし中や湯沸かし直後は、絶対に蓋を開けたり、お湯や水をつぎ足したりしないでください。

4. お湯が沸き、電源が切れます

- お湯が沸くと自動的に電源が切れます(①)。
(電源スイッチが元に戻り、電源ランプが消えます。)
- 持ち手を持ち、もう片方の手で給湯レバーを押しながら注水してください(②)。
<お湯が沸く前に電源を切る場合> ←連続して使用する場合
電源スイッチを指して電源ランプが消えた数分間、冷ましてから電源スイッチを押してください。

お願い

- 電源ランプが消灯していることを確認し、本体を電源ベースから外してお湯を注いでください。
- やけどの原因になりますので、沸騰後は持ち手以外を持たないでください。
- 持ち手の根元は熱くなっていますので、持ち手の少し下の方を持ってください。
- 湯沸かし直後は、本体が熱くなっているので注意してください。

⑧

使用方法

5. 使用後は

- 残ったお湯(水)は捨ててください。
- ※捨てるときは、必ず注ぎ口から捨ててください。
- 使用後はコンセントから電源プラグを抜きます。
- ※お湯が残っていると、本体内側の変色・においの原因になります。

お願い

- 水のつぎ足しをくり返して長時間使用すると、水垢が付着したり、お湯が変質したりすることがあります。使用ごとに残った水を捨ててください。
- ごまめにお手入れをしてください。

⑨

お手入れと保管方法

お手入れの前に

必ずお手入れは本体が完全に冷めてから行ってください。
ごまめにお手入れをしてください。
本体の丸洗いはできません。

△警告

- 通電状態でお手入れをすると、感電やけがの原因になりますので、お手入れの際には必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ベンジン・クリーナー・たわしななどを使用しないでください。
- 本体の外側に水をかけないでください。水を洗うする際は、本体の外側が濡れないように十分に注意ください。
- 長時間お使いにならないときは、お手入れ後、十分に自然乾燥させください。

本体内側の水垢(変色)や白い浮遊物について

- 白い浮遊物(ミネラル分の結晶)
- 乳白色、黒色、虹色などの変色
- 赤さび状のはん点(もらいさび)
- ざらつき

上の例は、水に含まれるミネラル分などの作用によるもので容器自体の変色や腐食ではありません。
衛生上に問題はありませんが、定期的にクエン酸洗浄でお手入れしてください。
※ミネラルウォーターやアルカリオン水を沸かしたときは容器が変色したり、水垢が発生しやすくなります。

本体外側のお手入れ

- よく絞ったふきんで拭きます。

フタのお手入れ

- 水洗いしたあと、水分を完全に拭き取り乾かします。

電源コード・電源プラグのお手入れ

- いたたいたらかいたなで拭き取ります。
※シンナー・ベンジン・磨き粉・化学ぞうきんは使用しないでください。

⑩

MENU

お手入れと保管方法

本体内側のお手入れ

- 市販のケトル洗浄剤、またはクエン酸洗浄をします。
- その後、水分を完全に拭き取り乾かします。
- ※長く使用していると本体内部に水垢が付着することがあります。

<クエン酸洗浄>

市販の電気ケトル洗浄剤が便利です。その場合は洗浄剤の取扱い指示に従ってご使用ください。

- ケトル本体に最大水位目盛線「MAX」(1.0L)まで水を入れ、約15gのクエン酸を入れて、上蓋をする
- ケトル本体を電源ベースに乗せ、電源を入れる
- お湯が沸き、電源が切れ
沸騰後、約1時間放置する
- ケトル本体を電源ベースからはずし、お湯を捨ててる
- ケトル内部をよく水ですぐ
- ケトルの腹に水をためるために、水を最大目盛線「MAX」(1.0L)を入れて再沸騰させる
お湯が沸いたらケトル本体を電源ベースからはずし、お湯を捨ててる

お願い

- 汚れが落ちにくい場合は、綴り返しクエン酸洗浄を行ってください。
- クエン酸洗浄の湯は飲まないようにしてください。
- クエン酸洗浄後は電源を切ってください。

収納する

- 直射日光を避け、温湿度が少ない場所に保管してください。
- ※本体をお手入れしてからボリ袋などに入れ、お買い上げ時の箱に収納します。

廃棄する場合

- 各自治体の廃棄区分に従ってください。

故障かな？と思ったら

症状

原因として考えられること

処置

症状	原因として考えられること	処置
お湯が沸かない、電源ランプが点灯しない	電源ベースのコンセントが外れ コンセントをきちんと差し込んでください。	そのままご使用ください。
本体の電源ベースに正しくのついていませんか？	正しくのせてください。	そのままご使用ください。
電源スイッチが「OFF」になってしまいませんか？	電源スイッチを「ON」にしてください。	そのままご使用ください。
電源ベース上面や電源ベース直接部に、金属片やゴミが付着しているませんか？	電源プラグを抜いてから、金属片やゴミを取り除いてください。	そのままご使用ください。
水が沸いていないときに、イニシャル「ON」していると、空気吹きをすると、安全装置が作動してお湯を自動的に切れます。	いったん本体を電源ベースから抜いて、空気吹きをすると、安全装置が作動してお湯を自動的に切れます。	そのままご使用ください。
作動しない、沸騰する前にスイッチが切れてしまう	450mlまで満たない水量で湯を沸かしていませんか？ また、水が沸いていないときに、イニシャル「ON」していると、空気吹きをすると、安全装置が作動してお湯を自動的に切れます。	ケトルをよく冷ました後、水を450mlまで入れて、電源スイッチを押してください。
湯に白い物が浮く、ケトル内部が汚れていたり、壁面ががれたよう見えます	ケトル内部に水垢が付着したのが原因だとと思われます。 ミネラル分が多い水やアカリ性の水を多く飲んでいたり、ケトルを空気吹きをすると、安全装置が作動してお湯を自動的に切れます。	ケトル内部をお手入れしてください。(10~11 ページ参照)
湯沸かし時の音が大きくなる	本体の底部面に水垢が付着したのです。	ケトル内部をお手入れしてください。(10~11 ページ参照)
電源スイッチが入らない	本体と電源ベースの端子接続部は正しく接続していますか？	きちんと接続されていることを確認してください。
電源スイッチが切れない	上蓋は閉まっていますか？ 上蓋がしっかりと閉まっていないと、安全装置が作動してお湯を自動的に切れます。	上蓋をしっかりと閉めください。
お湯が吹きこぼれる	水を最大目盛「MAX」を超えて入れていませんか？	水を最大目盛「MAX」以下にしてください。
お湯がにおう	水道水に含まれる消臭塩素の臭い、カルキ臭が残ることがあります。	ケトル内部をお手入れしてください。(10~11 ページ参照)

故障かな？と思ったら

症状

原因として考えられること

処置

症状	原因として考えられること	処置
使用後しばらくすると音がする	熱せられた部分が冷めると音がする音がある	そのままご使用ください。
給湯ボタンが下がったまま戻らない	いったん本体を電源ベースから抜いて、上蓋を閉め、お湯を沸かしてください。	カスタマーセンターにお問い合わせください。

⑪

⑫

⑬

⑭